

(仮称) 箱根仙石原宿泊施設プロジェクト
環境影響予測評価実施計画書

補足資料

令和 4 年 6 月 6 日

株式会社星野リゾート

目 次

1-2	工事用車両の走行や建設機械の稼働に伴う 大気汚染を選定しなかった理由について	1
4-1	工事用車両の騒音の非選定について.....	5
13-1	「浸透・貯留」及び流出抑制施設の規模の考え方について	7
17-1	夜間の景観への影響について	12
その他 1	施設配置図（縦断図）等について	17
その他 2	湧水の利用状況について.....	22

1-2 工事用車両の走行や建設機械の稼働に伴う 大気汚染を選定しなかった理由について

【質問】

参考にしたツインシティ大神地区の土地区画整理事業とは地形や気象条件等が異なることから、工事用車両の走行や建設機械の稼働に伴う大気汚染を選定しなかった理由について、本事業の場所や規模を踏まえて説明してほしい。

【回答】

ツインシティ大神地区土地区画整理事業（以下、「ツインシティ」という）の環境影響予測評価書において、大気汚染に関する予測に用いている風向・風速データ（平塚市立神田小学校観測局）を図 1-1-1 に、本事業の実施区域の近傍（仙石原 17 番地）の風向・風速データを図 1-1-2 に示します。

ツインシティでは年間の卓越風向が北北東で 21.7%、年間の平均風速は 2.8m/s でした。本事業の実施区域近傍においては、南東と南西の出現頻度がそれぞれ 30%であり、年間の平均風速は 1.9m/s でした。

地形については、ツインシティが平坦である一方、実施区域は緩傾斜地、風向・風速観測地点は平坦ではあるものの比較的山あいにあるため、地形的な条件は異なります。そのため、風速は事例と比較して若干弱めであり、卓越風向も異なっているものと考えられます。

表 3.2.35 風向別出現頻度及び平均風速
(平塚市神田小学校・平成 24 年度)

項目	風向出現頻度 (%)	平均風速 (m/s)
方位		
北	5.5	—
北北東	21.7	—
北東	16.3	—
東北東	4.3	—
東	3.1	—
東南東	1.5	—
南東	1.0	—
南南東	2.9	—
南	7.4	—
南南西	11.6	—
南西	7.9	—
西南西	4.7	—
西	1.8	—
西北西	1.6	—
北西	1.6	—
北北西	2.8	—
年間	—	2.8

資料) 平塚市環境部環境保全課ホームページ「大気常時監視測定データ」

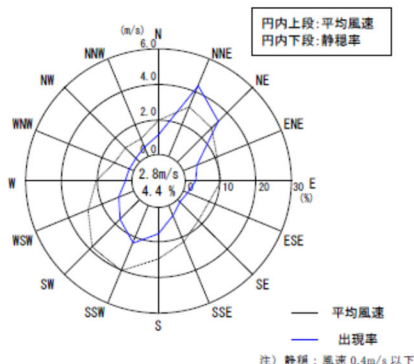


図 3.2.20 年間風配図 (平塚市神田小学校・平成 24 年度)

図 1-1-1 ツインシティ近傍の風向・風速データ (平塚市神田小学校)

出典: 「ツインシティ大神地区土地区画整理事業環境影響予測評価書」(平成 27 年 8 月、平塚市)

方向	風向出現頻度	平均速度 (m/s)
N	1%	-
NE	8%	-
E	9%	-
SE	30%	-
S	4%	-
SW	30%	-
W	12%	-
NW	5%	-
年間		1.9m/s

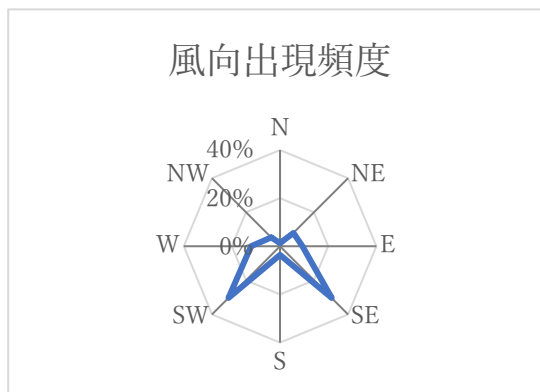


図 1-1-2 実施区域近傍（仙石原分遺所）の風向・風速データ（令和 2 年）
出典：「令和 2 年版 消防年報」（令和 3 年 7 月、箱根町消防本部）

一方で、工事用車両の走行台数（片道）を確認すると、ツインシティの事例では工事用車両が 257 台/日に対して、本事業では 36 台/日（走行が多くなる時期の日平均台数）と 1/7 以下です。

表 1-1-1 工事用車両走行台数（走行が多くなる時期の日平均台数）の比較

事業	大型車 (台/日)	小型車 (台/日)	走行速度 (km/h)	排出係数 (g/km・台)			時期
				物質	大型車	小型車	
ツインシティ	242	15	50	浮遊粒子状物質 (SPM) ※1	0.063	0.004	工事着手後 6～10 ヶ月目
				窒素酸化物 (NOx) ※1	1.190	0.068	
本事業	24	12	40	浮遊粒子状物質 (SPM) ※2	0.006958	0.000548	2 年次 8 か月目～12 か月目
				窒素酸化物 (NOx) ※2	0.432	0.049	

※1 出典：国土交通省国土技術政策総合研究所「国土技術政策総合研究所資料No.141 自動車排出係数の算定根拠」（平成 15 年 12 月）より、事例で用いられていた 2013 年度（平成 25 年度）に該当する値。

事例においては「粒子状物質 (PM)」と記載されていたが、上記資料において排出係数算定時に PM は SPM とみなされており、年次別（中間年次）排出係数では SPM の排出係数として掲載されているため「浮遊粒子状物質 (SPM)」と表記した。

※2 出典：国土交通省国土技術政策総合研究所「国土技術政策総合研究所資料No.671 道路環境影響評価等に用いる自動車排出係数の算定根拠（平成 22 年度版）」（平成 24 年 2 月）より、2025 年次の排出係数。

また、建設機械の稼働台数も、ツインシティの年間7,200台に対し、本事業では594台/年(建設機械の稼働が最大となる時期を含む1年間の台数)と、1/10以下となります。

表 1-1-2 事例における建設機械の年間稼働台数 (C工区、E工区施工期間)

建設機械の種類	規格	定格出力 (kW)	燃料消費率 (L/kW・h)	年間最大稼働台数 (台/年)	年間粒子状物質排出量 (kg/年)	年間窒素酸化物排出量 (Nm ³ /年)	
準備・防災、排水、道路、公園工事	ブルドーザ	16t	136	0.175	240	37	456
	バックホウ	0.7m ³	116	0.175	960	123	1,406
	バックホウ	0.45m ³	74	0.175	720	59	672
	バックホウ	0.25m ³	60	0.175	720	47	545
	振動ローラ	10t	77	0.152	480	26	304
	振動ローラ	1.5t	10	0.152	480	4	21
	タイヤローラ	10t	71	0.100	240	8	92
	アスファルト・フィニッシャ	2.4~6.0m	70	0.152	240	12	138
	移動式クレーン	45t	249	0.044	120	7	82
	移動式クレーン	25t	162	0.044	120	4	53
	盛土工事	ブルドーザ	23t	208	0.175	240	57
ブルドーザ		16t	136	0.175	480	74	911
バックホウ		1.2m ³	165	0.175	240	40	492
バックホウ		0.7m ³	116	0.175	480	61	703
ダンプトラック*		10~25t	-	-	1,200	20	1,080
転圧機		15t	71	0.100	240	8	92
合計				7,200	587	7,744	

注) 定格出力及び燃料消費率の出典は、社団法人日本建設機械化協会「平成19年度版 建設機械等損料表」(平成19年4月)。

* 走行距離2km、速度30km、排出係数(浮遊粒子状物質0.008435g/km・台、窒素酸化物0.450g/km・台)

排出係数: 国土交通省国土技術政策総合研究所「国土技術政策総合研究所資料第671号 道路環境影響評価等に用いる自動車排出係数の算定根拠(平成22年度版)」(平成24年2月)

表 1-1-3 本事業における建設機械の種類及び年間稼働台数

(1年次2か月目~2年次1か月目)

工種	建設機械の種類	規格	年間最大稼働台数 (台/年)	
解体工事	解体重機	0.7 m ³	/	
	バックホー解体材積込用	0.45 m ³		
伐採	伐採用解体重機	0.7 m ³		
	バックホー解体材積込用	0.45 m ³		
造成	造成用バックホー	0.7 m ³		
	ブルドーザー			
土工事	バックホー	0.45 m ³		
	バックホー	0.7 m ³		
建築資材	移動式油圧クレーン	25t		
外構	外構用バックホー	0.45 m ³		
		0.25 m ³		
合計				594

事例では建設機械の台数が約 10 倍、工事用車両の台数が約 7 倍と工事規模が本事業に比べて大きいですが、その台数が稼働・走行した場合でも環境基準に適合し、浮遊粒子状物質や二酸化窒素の寄与率が小さく、現状を悪化させるものではないと評価されています。

本事業では、建設機械の稼働台数が小さいことから大気汚染物質の排出量自体が少ないこと、風況の違いはあり事例と比較して拡散しにくいと考えられるものの、風速は大きく異なること、規模の違いを考慮すると少なくとも事例よりも大気汚染濃度の寄与率が高くなることはないと考え、評価項目として非選定としました。

※仙石原（本事業の実施区域の近傍）の風向・風速データは事業地そのもののデータではないため、おおよその分析結果となります。

4-1 工車用車両の騒音の非選定について

審査会のご意見を受けて、工事の実施時の工車用車両の走行に伴う騒音を評価項目として選定いたします。

それに伴い、実施計画書「2. 調査方法、調査時期等の調査計画その他の内容 2.3 騒音・低周波音（騒音）」の項目に沿って、工車用車両の走行に伴う騒音に関する調査・予測・評価手法を示します。

評価項目：騒音・低周波音（騒音）

(1) 調査の手法

1) 調査事項

①地形及び工作物の状況

騒音の伝搬に影響を及ぼす地形、地表面、工作物の位置及び規模等の状況

②土地利用の状況

静穏の保持を要する施設等の分布状況、用途地域の指定状況その他の土地利用の状況（将来の土地利用の状況を含む。）

③騒音の発生源の状況

工車用車両が走行する県道の交通量の状況

④騒音レベルの状況

工車用車両が走行する県道の道路交通騒音（推計）

2) 調査方法

①地形及び工作物の状況

騒音の伝搬に影響を及ぼす地形、地表面、工作物の位置及び規模等の状況について、地形図、航空写真等の既存資料調査により把握する。

②土地利用の状況

静穏の保持を要する施設等の分布状況、用途地域の指定状況その他の土地利用の状況について、e-かなマップ等の既存資料調査により把握する。

③騒音の発生源の状況

工車用車両が走行する県道の現況交通量（工車用車両が通行する時間帯の実測値または推計値）について、最新の道路交通センサス（国土交通省）の結果から把握する。

④騒音レベルの状況

工事用車両の走行ルートとなる県道沿いの騒音レベルについては、最新の道路交通センサス（国土交通省）の交通量を用いて道路交通騒音の予測モデル（ASJ RTN-Model 2018）を用いて推計する。

3) 調査地点

工事用車両が走行する県道の現況交通量については、湯河原箱根仙石原線（県道 75 号）及び大涌谷湖尻線（県道 735 号）を対象とする。

4) 調査の時期、期間又は時間帯

既存資料調査のうち、地形及び工作物の状況、土地利用の状況及び騒音の発生源の状況については、入手可能な最新データを確認する。

(2) 予測の手法

1) 予測の前提

予測の前提については、以下の内容について整理する。

工事用車両の種類、台数、走行ルート、法定速度、道路の状況等

2) 予測方法

工事用車両の走行ルートとなる県道の代表的な 1 断面において、工事用車両走行時の道路交通騒音レベルを伝搬理論式（日本音響学会により提案された道路交通騒音の予測式（ASJ RTN-Model 2018）を用いて予測する。

3) 予測地域及び地点

工事用車両の走行に伴う騒音の予測地点は、走行ルートとなる県道の代表的な 1 断面の道路端とする。予測高さは地上 1.2m を基本とし、必要に応じて周辺の建築物を考慮して設定する。

4) 予測の対象とする時期、期間又は時間帯

工事用車両の走行による周辺への騒音の影響が最大となる時期とする。

(3) 評価の手法

騒音の影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避若しくは低減されているか又は必要に応じてその他の方法により環境の保全等についての配慮が適正になされているかについて評価を行う。

環境基本法に基づく「騒音に係る環境基準」と調査及び予測の結果との間に整合が図られているかについて評価を行う。

13-1 「浸透・貯留」及び流出抑制施設の規模の考え方について

【質問】

立地特性を踏まえると降水量が平野に比べて多い可能性があることから、できるだけ条件が類似した地点における過去5年程度の年毎の最大時間雨量、年毎の最大の総雨量を記録した降水の総雨量及び継続時間のデータを示してほしい。

【回答】

分析データ

観測地点：大涌谷観測所（足柄下郡箱根町仙石原、標高 1,050m）

期間：2017年1月～2021年12月の5年間



分析結果

➤ 時間雨量

過去5年間の時間雨量は、9割以上が9mm/h以下であり、40mm/h以上となった回数は2回のみ（2018年8月12日12時：43mm/h、2019年7月26日23時：42mm/h）でした。

時間雨量（階級別・降雨量0mm/hを除く）の割合

時間雨量 (mm/h)	データ数	割合
1～9	3505	94.1%
10～19	177	4.8%
20～29	30	0.8%
30～39	10	0.3%
40～	2	0.1%

➤ 日別雨量

日別雨量の状況は、下表に示す通りです。

日別雨量（降雨量 0mm/h を除く）の状況

年	最大 (mm/日)	最小 (mm/日)	平均 (mm/日)	100mm/日 以上の日数
2017	130	1	16	3
2018	166	1	18	3
2019	160	1	16	1
2020	137	1	18	1
2021	180	1	18	4

➤ 各年の時間雨量及び降雨イベント（上位 5 位）

過去 5 年間の各年の時間雨量及び日別雨量上位 5 日を抽出し、降雨継続時間を降雨イベント継続時間とし、降雨イベントでの総雨量を求めました。総雨量が最も多かったのは 2021 年 7 月の 444 mm で、東海地方・関東地方南部を中心とした記録的な大雨の際の観測値です。

【2017 年】

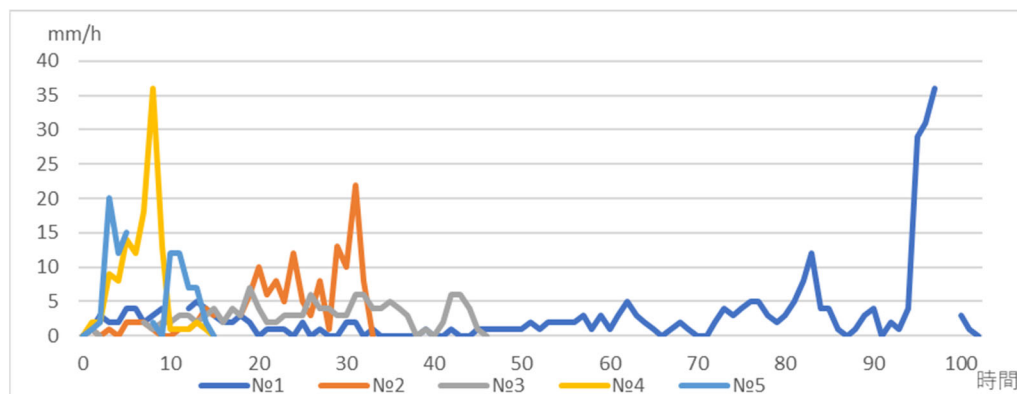
時間雨量

順位	時間雨量 (mm/h)	日時
1	36	2017/6/21 14:00
2	36	2017/10/23 2:00
3	31	2017/10/23 1:00
4	29	2017/10/23 0:00
5	22	2017/10/29 19:00

降雨イベント（総雨量順）

順位	総雨量 (mm)	継続時間 (時間)	最大日別 雨量 (mm/日)	最大日別 雨量 観測日	備考
1	286	102	100	10/23	最大時間雨量 36mm/h を含む
2	140	32	130	10/29	
3	128	46	82	9/17	
4	120	15	120	6/21	最大時間雨量 36mm/h を含む
5	92	15	83	8/7	

降雨イベント継続時間の時間雨量変化（凡例No.は降雨イベント順位に対応）



注 欠測のある時間帯については降雨が続いているとみなし、継続時間に含めた。

【2018年】

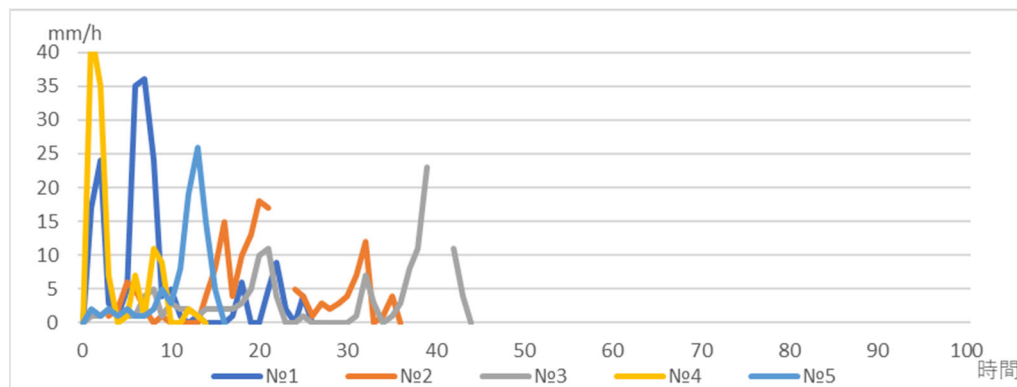
時間雨量

順位	時間雨量 (mm/h)	日時
1	43	2018/8/12 12:00
2	36	2018/7/6 5:00
3	35	2018/7/6 4:00
4	35	2018/8/12 13:00
5	27	2018/9/4 9:00

降雨イベント（総雨量順）

順位	総雨量 (mm)	継続時間 (時間)	最大日別 雨量 (mm/日)	最大日別 雨量 観測日	備考
1	183	26	166	7/6	最大時間雨量 35mm/hを含む
2	152	36	106	7/28	
3	139	39	93	9/30	
4	117	14	117	8/12	最大時間雨量 43mm/hを含む
5	93	16	88	4/25	

降雨イベント継続時間の時間雨量変化（凡例No.は降雨イベント順位に対応）



注 欠測のある時間帯については降雨が続いているとみなし、継続時間に含めた。

【2019年】

時間雨量

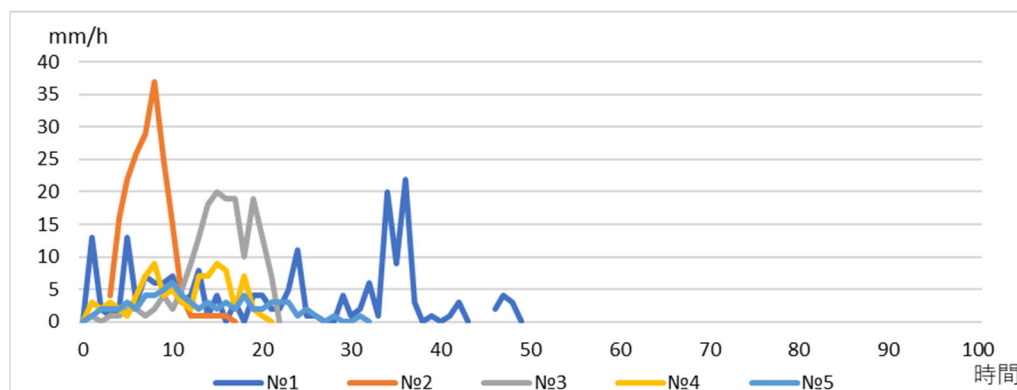
順位	時間雨量 (mm/h)	日時
1	42	2019/7/26 23:00
2	37	2019/9/9 0:00
3	34	2019/7/27 1:00
4	29	2019/9/8 23:00
5	26	2019/9/8 22:00

降雨イベント（総雨量順）※

順位	総雨量 (mm)	継続時間 (時間)	最大日別 雨量 (mm/日)	最大日別 雨量 観測日	備考
1	195	49	99	8/14	
2	183	17	97	9/8	最大時間雨量 29mm/hを含む
3	168	22	160	5/21	
4	88	21	88	6/15	
5	73	32	66	4/30	

※令和元年台風第19号直撃時（2019年10月11日～12日）の大涌谷観測所の雨量データは欠測
（次ページに気象庁箱根観測所のデータを示す）

降雨イベント継続時間の時間雨量変化（凡例No.は降雨イベント順位に対応）



注 欠測のある時間帯については降雨が続いているとみなし、継続時間に含めた。

<令和元年台風第19号直撃時（2019年10月11日～12日）の雨量について>

過去5年間のうちで記録的大雨となった令和元年台風第19号直撃時（2019年10月11日～12日）について、大涌谷観測所の雨量データは欠測であったため、気象庁箱根観測所のアメダスデータより降雨イベント継続時間、総雨量等を集計した。総雨量は991mm、継続時間38時間であり、最大時間雨量は79mm/hであった。

	総雨量 (mm)	継続時間 (時間)	最大 日別雨量 (mm/日)	最大日別 雨量観測日	最大 時間雨量 (mm/h)
令和元年 台風第19号	991	38	923	10/12	79

降雨イベント継続時間の時間雨量変化（台風19号直撃時）



【2020年】

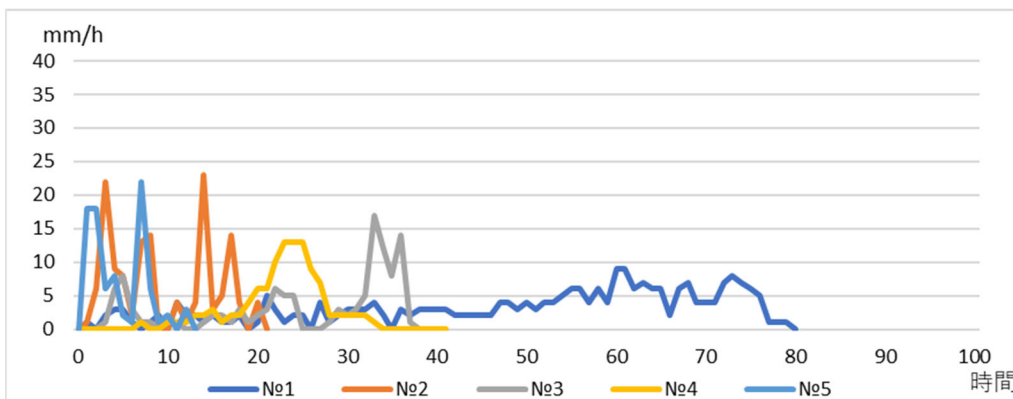
時間雨量

順位	時間雨量 (mm/h)	日時
1	29	2020/7/12 17:00
2	23	2020/7/26 15:00
3	22	2020/7/26 4:00
4	22	2020/9/6 6:00
5	20	2020/7/29 21:00

降雨イベント（総雨量順）

順位	総雨量 (mm)	継続時間 (時間)	最大日別 雨量 (mm/日)	最大日別 雨量 観測日	備考
1	254	80	110	10/10	
2	137	21	137	7/26	最大時間雨量 23mm/hを含む
3	119	38	96	7/1	
4	108	41	104	4/13	
5	87	13	87	9/6	

降雨イベント継続時間の時間雨量変化（凡例No.は降雨イベント順位に対応）



注 欠測のある時間帯については降雨が続いているとみなし、継続時間に含めた。

【2021年】

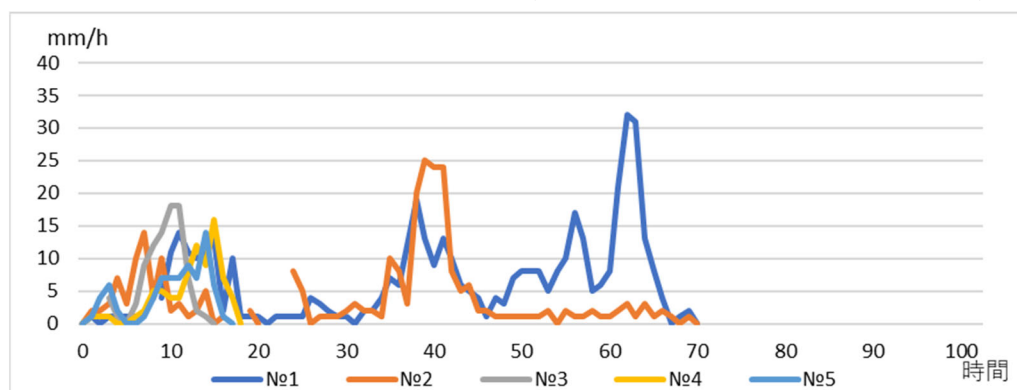
時間雨量

順位	時間雨量 (mm/h)	日時
1	32	2021/7/3 8:00
2	31	2021/7/3 9:00
3	25	2021/6/16 11:00
4	25	2021/7/13 15:00
5	25	2021/8/15 11:00

降雨イベント（総雨量順）

順位	総雨量 (mm)	継続時間 (時間)	最大日別 雨量 (mm/日)	最大日別 雨量 観測日	備考
1	444	70	180	7/3	最大時間雨量 32mm/h を含む 東海地方・関東地方南部を中心 に記録的な大雨
2	264	15	154	8/15	最大時間雨量 25mm/h を含む
3	89	17	89	2/15	
4	80	18	80	4/17	
5	76	17	76	11/8	

降雨イベント継続時間の時間雨量変化（凡例No.は降雨イベント順位に対応）



注 欠測のある時間帯については降雨が続いているとみなし、継続時間に含めた。

17-1 夜間の景観への影響について

【質問】

供用時の夜間の景観への影響について、ほかの事例の写真だけでなく、図面を利用するなどして分かりやすく示してほしい。

【回答】

夜間において主な光源となりうる施設は、①最も建物規模が大きい「レストラン棟」、②実施区域内の傾斜地の中で最も高い場所に位置する「ライブラリーラウンジ兼レセプション棟」（以下、「ラウンジ棟」と、③客室周辺の屋外の庭であると考えられます。

本施設では、全体に明るさを抑えた照明とすることを予定していますので、同様に明るさを抑えた照明を採用している弊社他施設の事例を参考に、夜間の明るさの状況を示します。

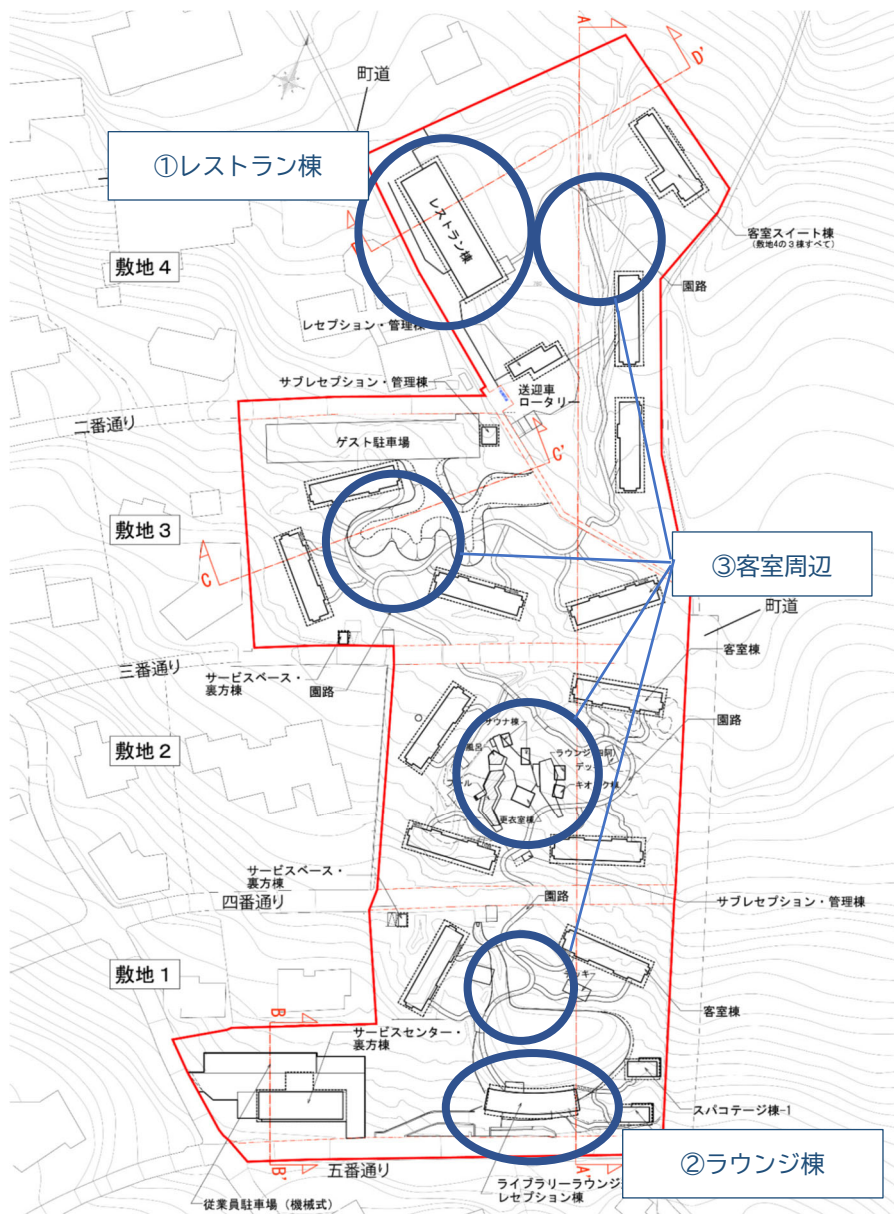


図 17-1-1 夜間の主な光源となりうる施設 (図中○)

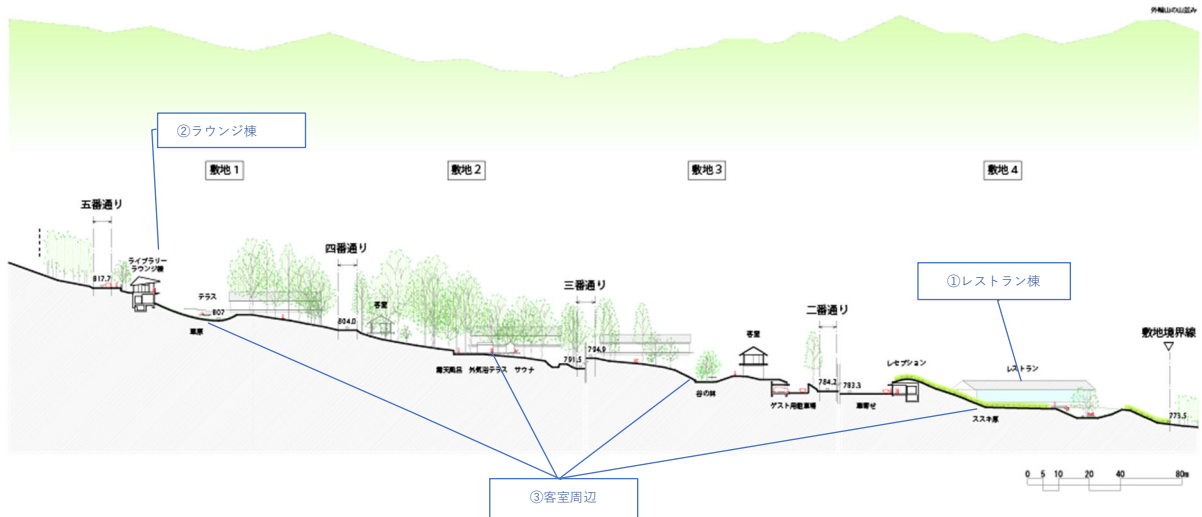


図 17-1-2 実施区域縦断図 (イメージ)

【参考事例 (既存施設)】

参考事例として示す弊社他施設 (以下、「既存施設」) の配置は、以下のとおりです。
 本事業よりも規模が大きいたが、レストラン棟、ラウンジ棟があり、それぞれ海側に面して窓が設置されています。

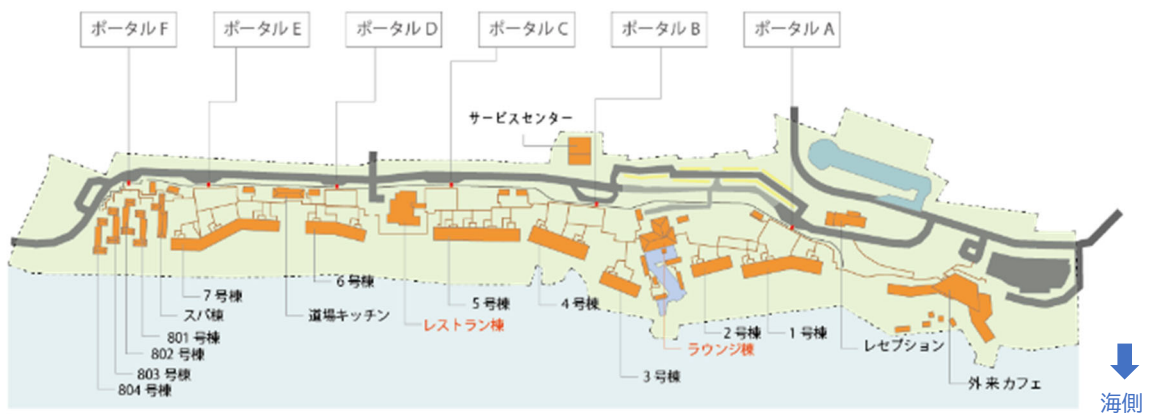


図 17-1-3 既存施設の配置

①レストラン棟

本施設のレストラン棟は、東側の庭を楽しむように窓が設置されますが、室内照明は既存施設と同様に明るさを抑える計画であることと、室内には遮光性のロールスクリーン等を設置する予定となっていることから、夜間は室内の光が外に漏れにくいと考えられます。また、23時頃には消灯されます。

外構については、設置する照明の数自体が少なく（歩道5～10mに1個程度）、照明器具も既存施設と同様に明るさを抑えたものとする予定です。参考に、既存施設で使用している屋外照明器具を表17-1-1に示します。

■レストラン棟の照明配置（照明密度）及び室内照明の状況

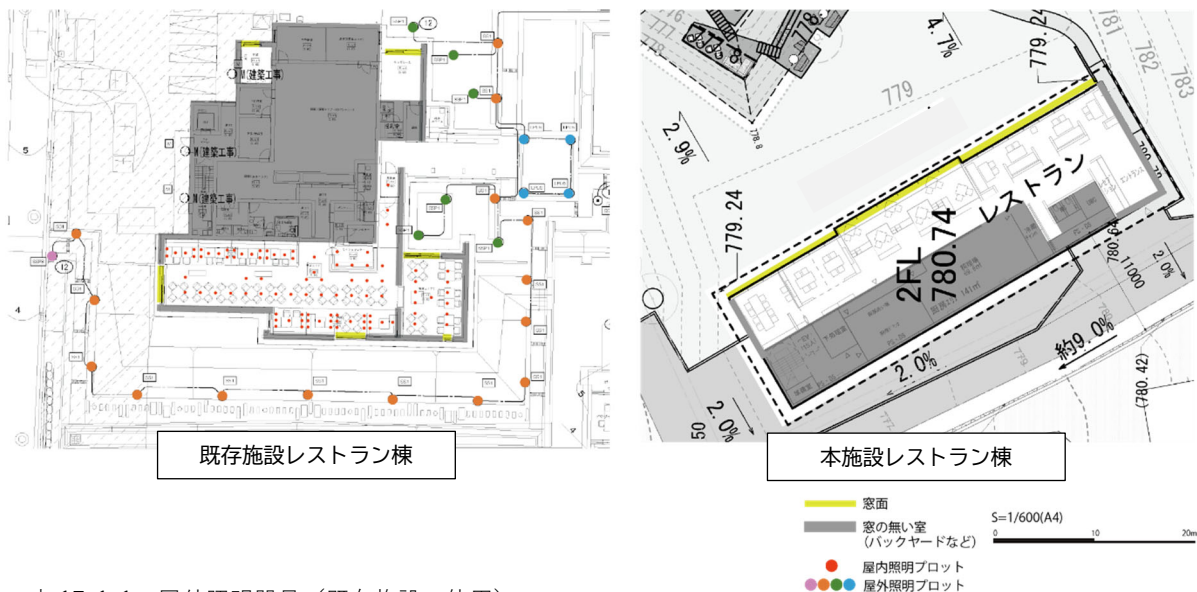
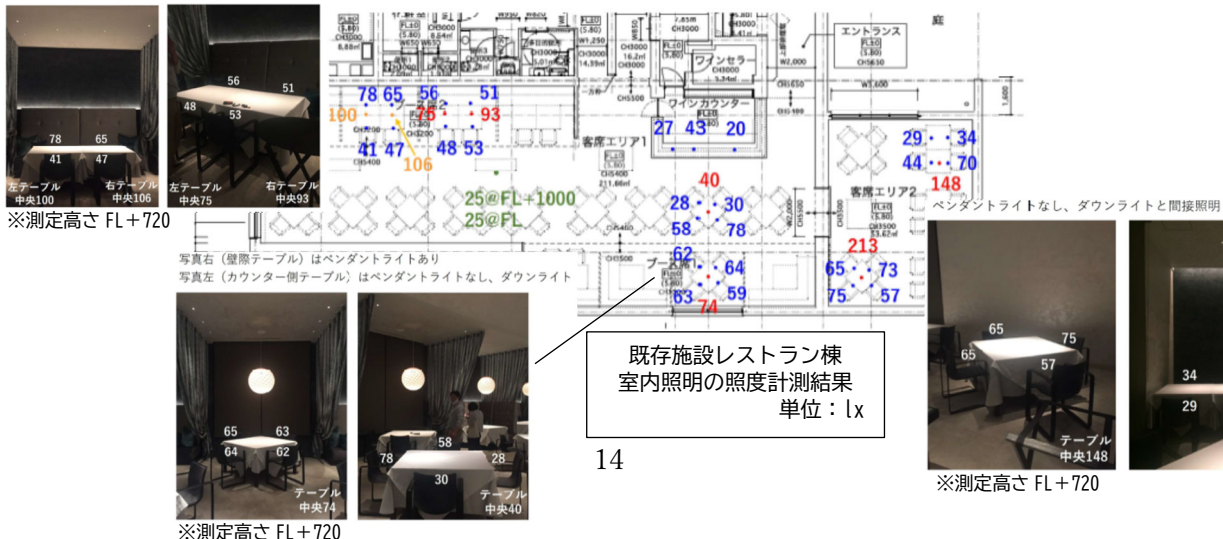


表 17-1-1 屋外照明器具（既存施設で使用）

器具記号	名称	光源	イメージ	器具記号	名称	光源	イメージ
●SSP1	スパイクスポット（樹木）	LED15W 電球色 3000K/ 配光 15° 約 1000lm		●LPL6	ローボールライト	LED6.3W 電球色 2700K 440lm	
●SSP3	スパイクスポット	LED6.7W 電球色 3000K/ 配光 20° 360lm		●SS1	スパイクステイックライト	LED4W 電球色 2700K 500lm	

ペンダントライトなし、ダウンライトと間接照明



②ラウンジ棟

本施設のラウンジ棟は緩斜面の上部に位置し、北側の庭に向かって前面に窓が設置されます。ラウンジ棟は夜間を通して営業を行います。室内照明は既存施設と同様に明るさを抑える計画であることと、室内には遮光性のロールスクリーン等を設置する予定となっていることから、夜間は室内の光が外に漏れにくいと考えられます。

外構については、設置する照明の数自体が少なく（歩道5～10mに1個程度）、照明器具も既存施設と同様に明るさを抑えたものとする予定です。参考に、既存施設で使用している屋外照明器具を表17-1-2に示します。

■ラウンジ棟の照明配置（照明密度）及び室内照明の状況

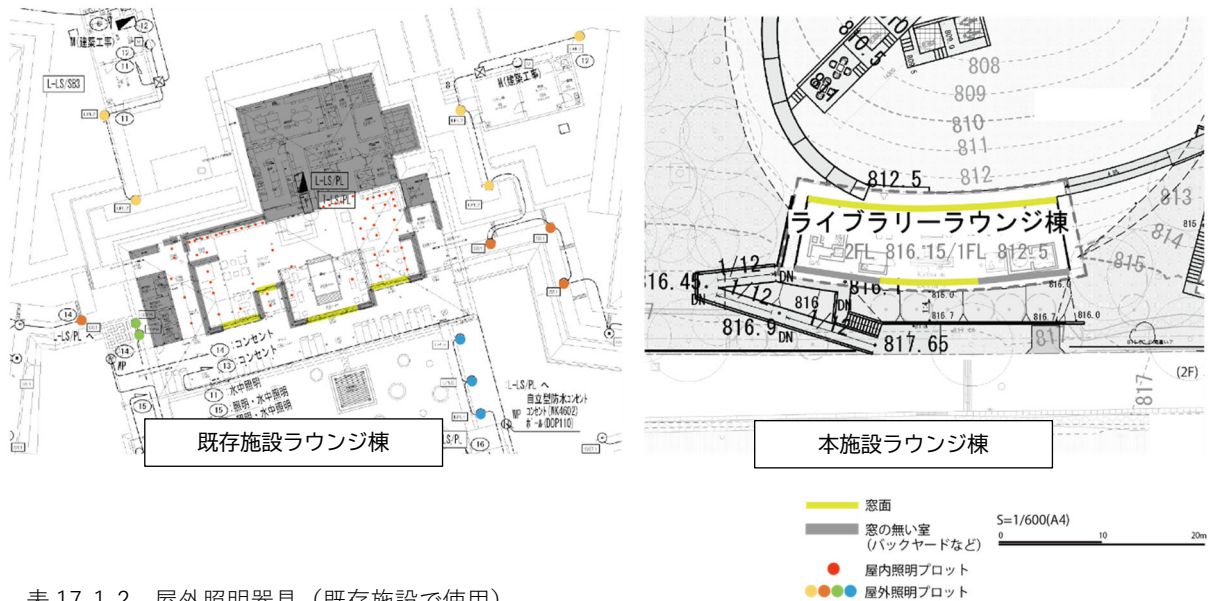
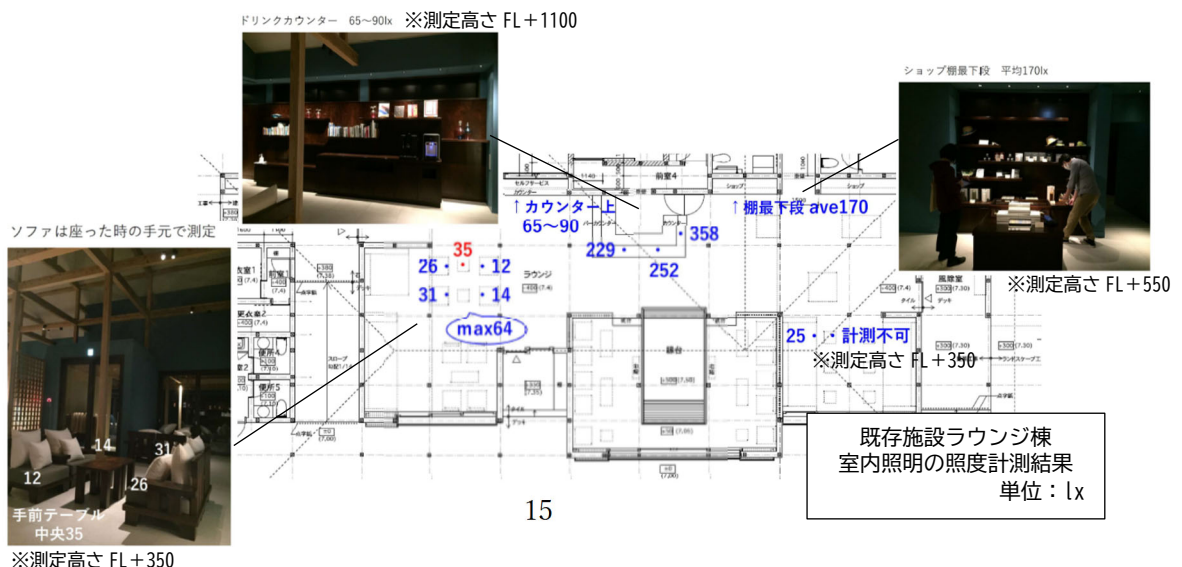


表 17-1-2 屋外照明器具（既存施設で使用）

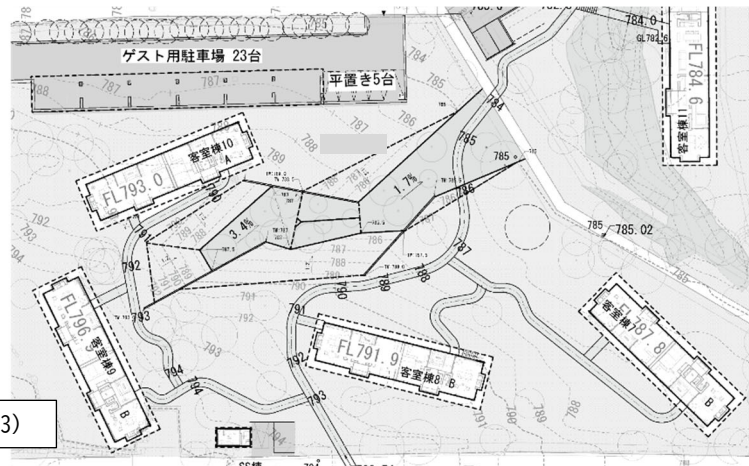
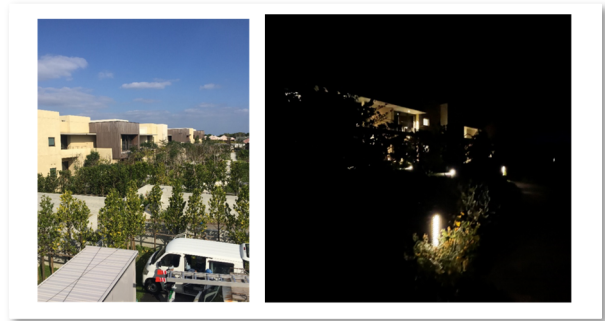
器具記号	名称	光源	イメージ	器具記号	名称	光源	イメージ
●SSP4	スパイクスポット	LED6.7W 電球色 3000K/ 配光 36° 320lm		●LPL2	ローポール/H600 （片側配光）	LED8W 電球色 3000K 230lm	
●SS1	スパイクスティックライト	LED4W 電球色 2700K 500lm		●LPL6	ローポールライト	LED6.3W 電球色 2700K 440lm	



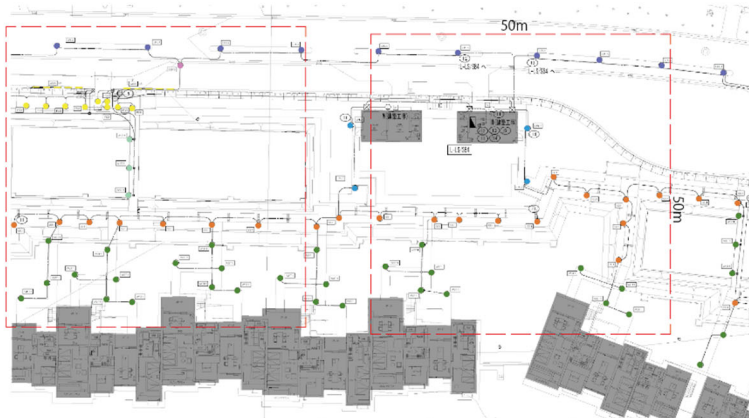
③客室周辺（屋外の庭）

客室は、1F部分は外構植栽で遮蔽され、窓には遮光性のロールスクリーン等を設置するため、夜間に室内の照明が漏れにくい状況です。

庭にも照明を設置しますが、照明密度は下図に示す既存施設周辺と同様となる予定です。また、本事業では、既存樹木を多く保存するため、外構植栽に中低木を多く使用している既存施設よりも植栽による遮蔽効果が高いと考えられます。



本施設客室周辺（敷地3）



参考事例照明密度：
 標準的な客室エリア：100m²あたり1.08～1.2個
 敷地入口含む明るいエリア：100m²あたり1.92個
 ※本事業においては入口を特に明るくする計画はしておりません
 S=1/800(A4)

既存施設客室周辺

表 17-1-3 屋外照明器具（既存施設で使用）

器具記号	名称	光源	イメージ	器具記号	名称	光源	イメージ	器具記号	名称	光源	イメージ
SSP3	スパイクスポット	LED6.7W 電球色 3000K/配光20° 360lm		LPL2	ローポール/H600 (片側配光)	LED8W 電球色 3000K 230lm		WID5	ラインライト	LED24W/m 電球色 2700K 配光18°	
FS3	フランジスポット	LED6W 2700K 配光20°		LPL4	ロースタンド H600 (片側配光)	LED6.3W 電球色 2700K 110lm		WST1	足元照明	LED電球 (E17)7.7W 電球色 2700K	
SS1	スパイクスティックライト	LED4W 電球色 2700K 500lm									

その他 1 施設配置図（縦断図）等について

本事業においては道路の造成を行わない計画となっておりますが、実施計画書 P3-1-3-3「図 3-1-3-2 施設配置図（縦断図）」及び P3-2-5-3「図 3-2-5-2 造成計画断面図」の A-A'断面図において、四番通りを造成するような図面となっております。

実施計画書に掲載した図面及び訂正した図面を次ページ以降に示します。

凡例

- 造成後の断面
- - - - 造成前の断面
- 掘削面

A-A' 断面

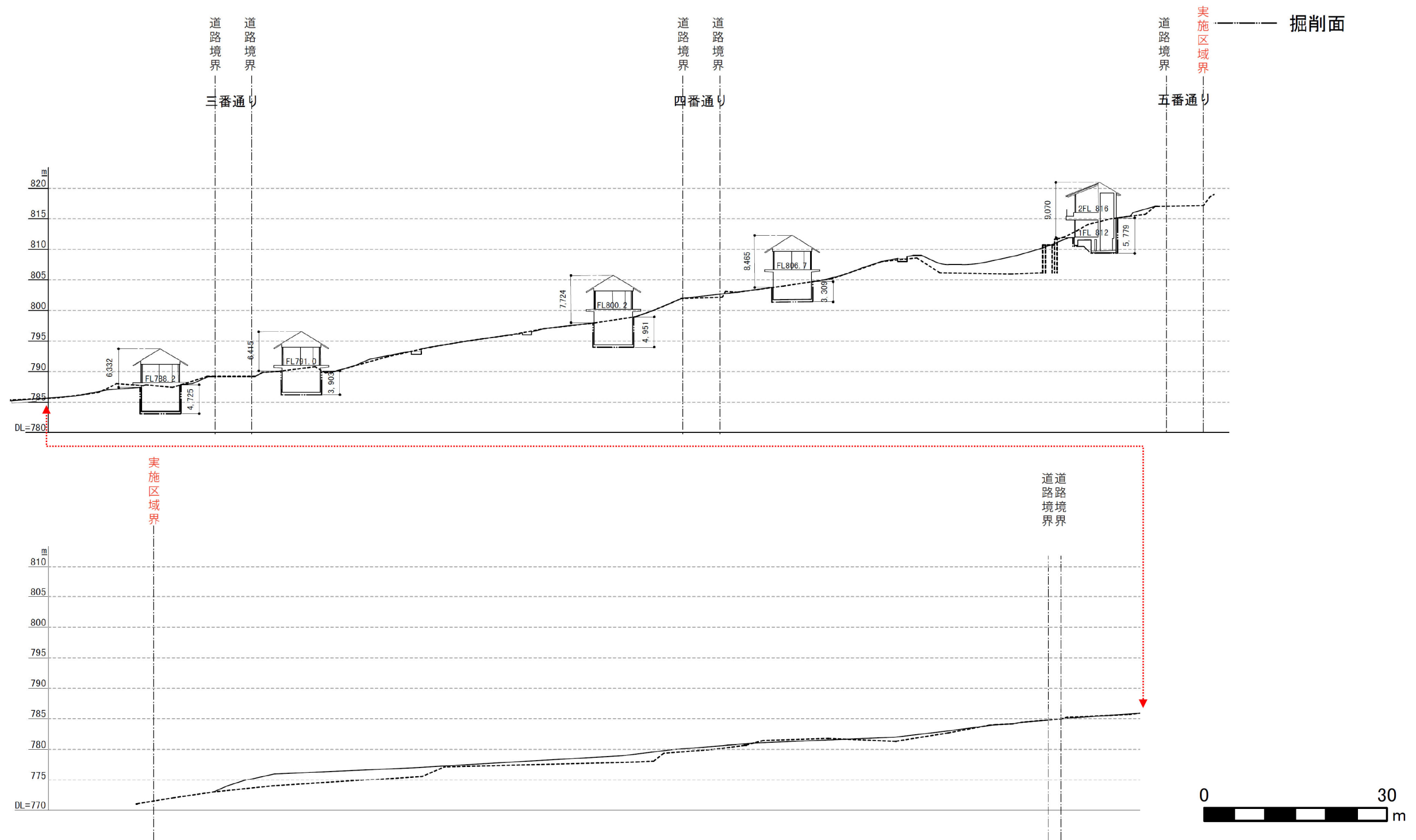


図 3-1-3-2 施設配置図 (縦断面) (1/2)

訂正後図面

凡例

—— 造成後の断面

----- 造成前の断面

—— 掘削面

A-A' 断面

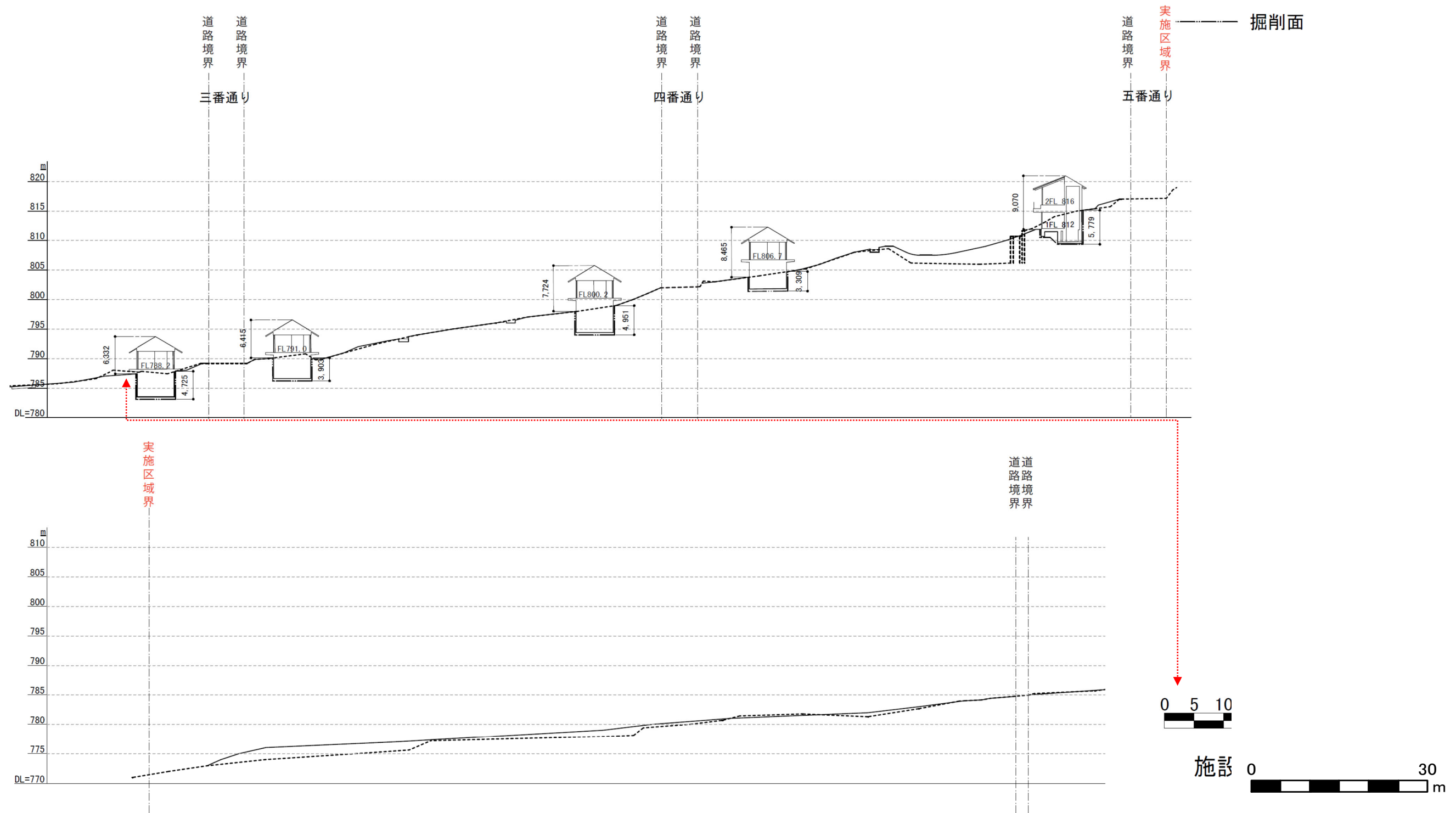


図 3-1-3-2 施設配置図 (縦断面)

凡例

- 造成後の断面
- - - - 造成前の断面
- 掘削面

A-A' 断面

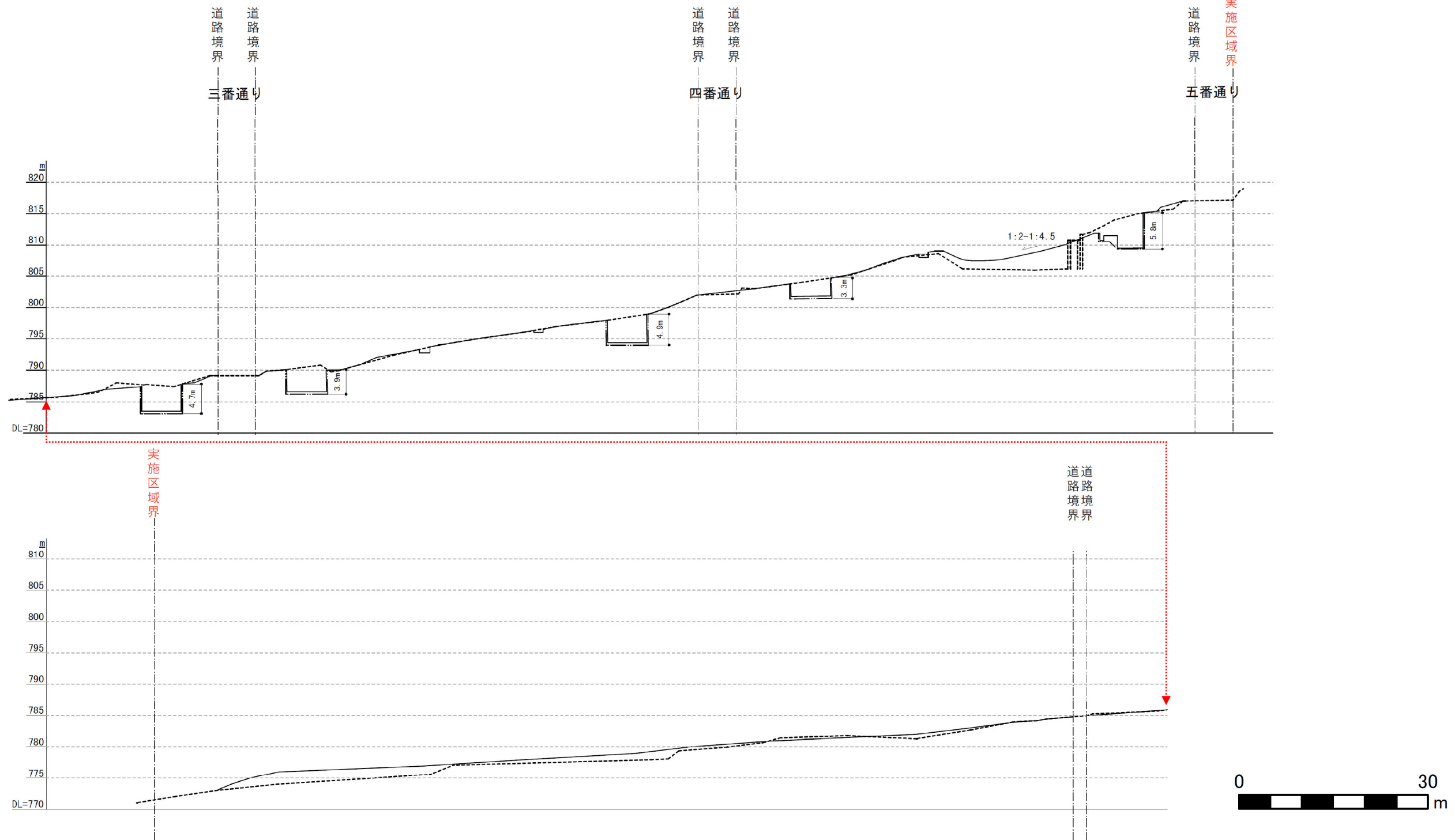


図 3-2-5-2 造成計画断面図 (1/2)

訂正後図面

凡例

- 造成後の断面
- 造成前の断面
- 掘削面

A-A' 断面

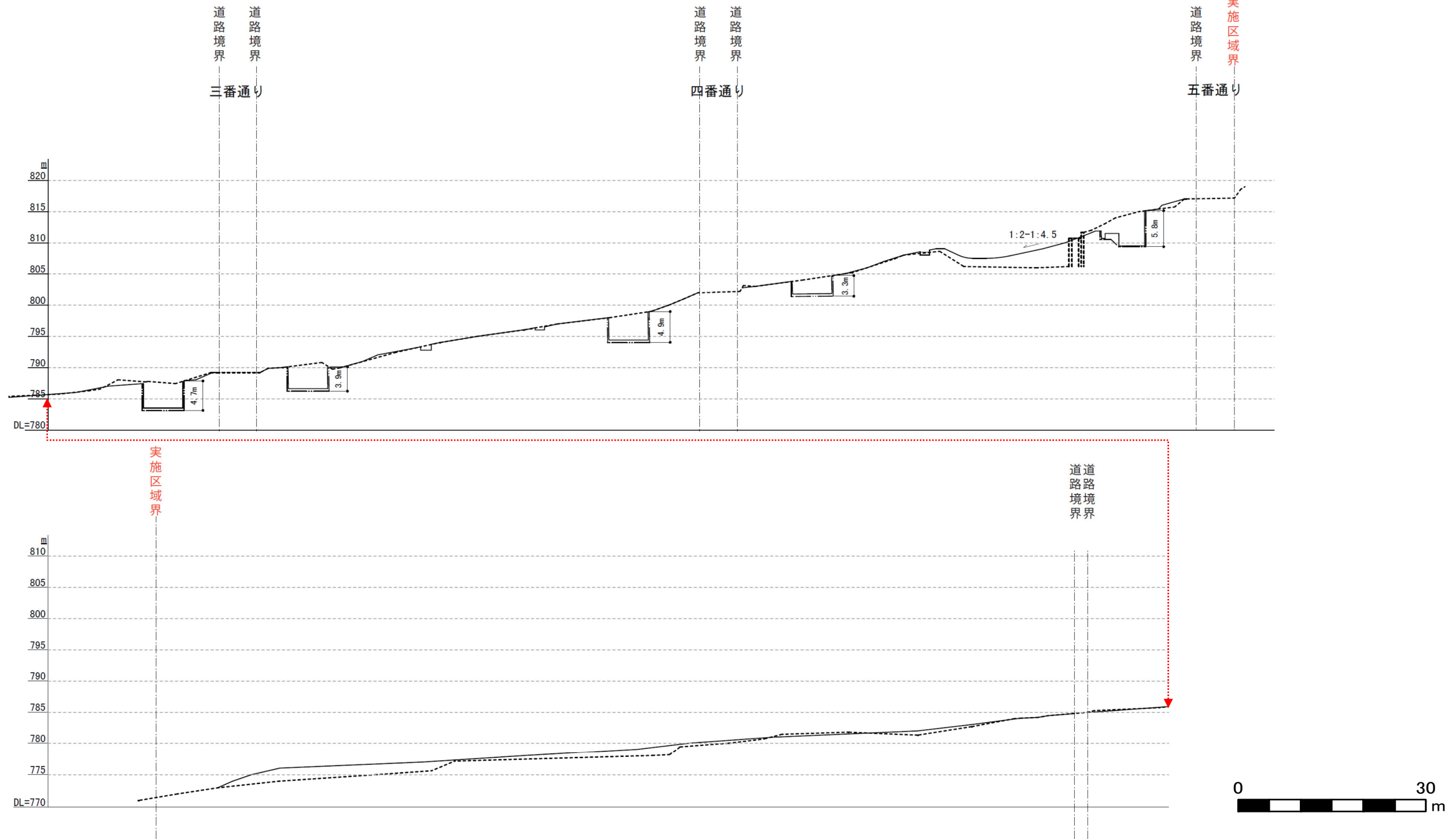
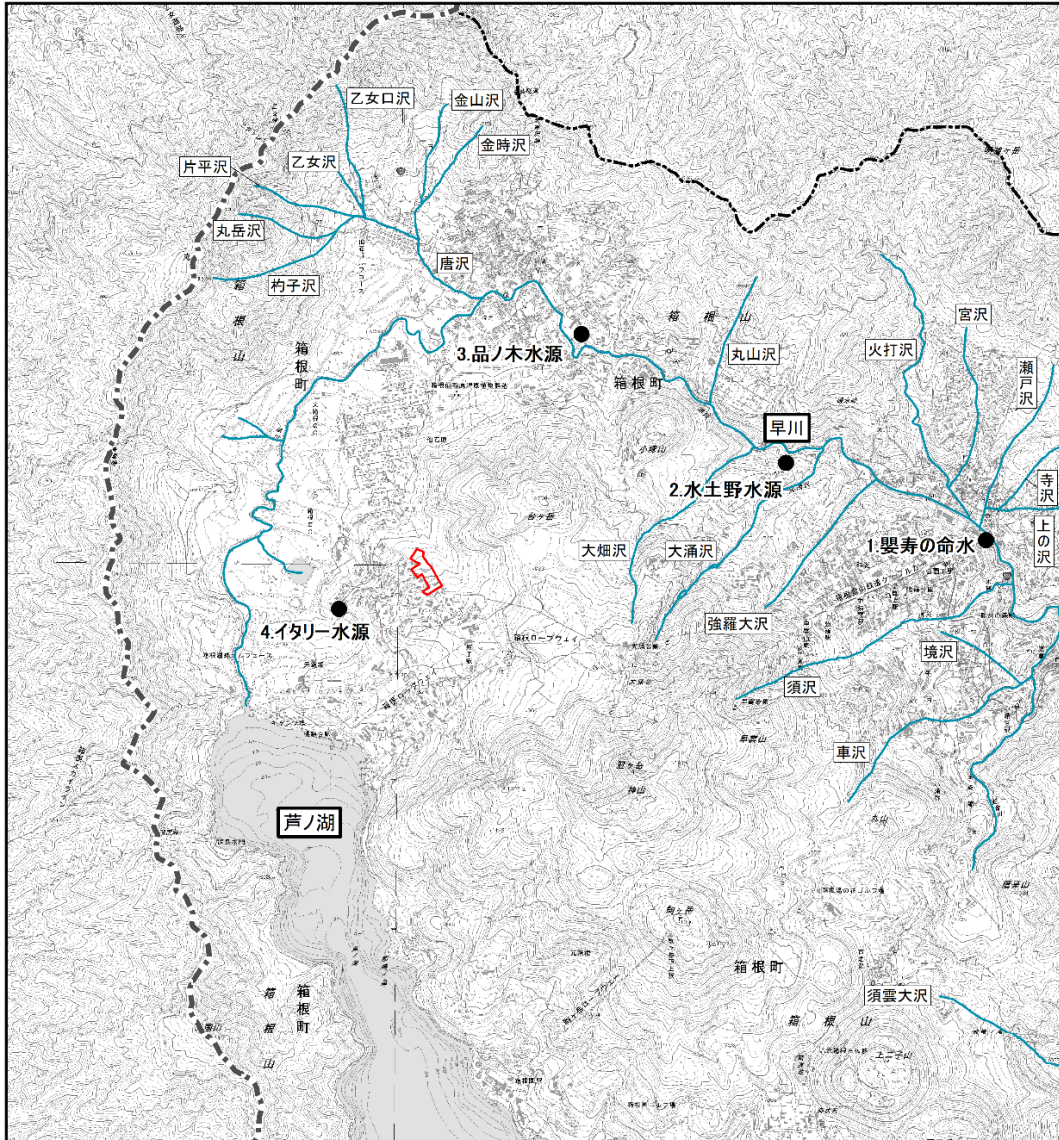


図 3-2-5-2 造成計画断面図

その他2 湧水の利用状況について

実施計画書 P2-2-1-14～15 の「別添 2-2 1.社会的状況 1.6 水利用(1)湧水の利用状況」について、2つの水源（品ノ木水源、イタリー水源）の情報が記載されておりませんでした。また、水土野水源の図面上の位置に誤りがありました。

以上2点について以下に示すとおり訂正し、予測評価書案には正しい情報を記載します。



凡例

- 実施区域
- 市町村界
- 県境
- 河川
- 湧水位置

<追加する水源>

番号	湧水名	所在地
3	品ノ木水源	箱根町仙石原
4	イタリー水源	箱根町仙石原

出典：「河川データ」（令和3年11月閲覧、国土数値情報ダウンロードサービス、国土交通省）
 「湧水保全ポータルサイト」（令和3年11月閲覧、環境省ホームページ）
 箱根水道パートナーズ株式会社ホームページ（令和4年5月閲覧）

